

科目区分	教養科目	授業科目名	ボイストレーニング（うた表現）			科目コード	23Y012	担当者	中澤 伸元			担当形態	単独
対象学科・コース	幼児教育学科	配当年次	1年次	開講学期	後期	単位数	1	必修・選択の別	選択	免許・資格要件	保育士必修		
授業形態	演習	履修条件									教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分	
実務の経験を有する教員担当科目	該当	実務の経験内容及び科目との関連	獨協大学グリクラブのボイストレーナーを3年間、活水高校にて声楽講師として勤める。講演ワークショップ、ミュージカル依頼など数多くの経験を活かしボイストレーニング、卒研などの授業に役立てている。										科目に含めることが必要な事項

授業の主題	保育士として必要な発声法、呼吸法など基礎訓練を身に付け、うた表現を学ぶ。	課題等への対応（フィードバックの方法等）	学生達の授業中の表現に対し、具体的な理解しやすい言葉を伝える事、次なるステップにつながるようにする。未来を見据えるフィードバックも取り入れる事で、学生のモチベーションを上げ目標達成の効果を生む。
授業の方法	発声訓練、呼吸訓練、活舌などを自主的に学び、習慣化する。歌う時の姿勢や態度、心の状態、表現方法を身に付け、子どものうた表現との一体化をめざす。	アクティブ・ラーニングの実施方法	課題をテーマにグループ発表とディスカッション等のグループワークを行う。動画などで学生同士が情報交換。価値判断が変わった令和の時代に合った能動的かつ積極的な学びに合う力を目指す。

回数	授業計画	事前・事後学修	回数	授業計画	事前・事後学修	
第1回	呼吸法、滑舌、音程、リズムなどの訓練。呼吸、滑舌、音程、リズムなどを発声や歌唱にどうつなげていくか。	動画で実力あるプロの歌唱を何回も聴き、歌を聴く楽しみを習慣化に！	第9回	滑舌と音程。滑舌とリズム。滑舌歌いだし歌い終わりの訓練。力みすぎ、息漏れの誤り。	言葉による滑舌と音程練習の繰り返し。	
第2回	呼吸、発声法など基礎訓練 ハ長調の音階を歌う。各調の音階を理解しながら歌う。 ♪こどものうた	1回目授業の復習 2回目の復習	第10回	様々なリズム訓練。嘉祥寺の呼吸管理と支えの技術。一度～五度訓練。	一つ一つのリズムが心の状態まで変えてしまう喜びを楽しみ、訓練しよう。	
第3回	基礎訓練 声を磨く。明るい声・暗い声の訓練、高い声・低い声の訓練。表情筋を鍛える。 音程一度～二度訓練 ♪こどものうた	1回目から3回目までの復習。 とにかく繰り返し繰り返し。	第11回	歌唱時の共鳴を確立するため訓練。長六度短六度、長七度短七度訓練。	共鳴を意識し、プロ動画を聞いて、よし悪しを判断していよう。	
第4回	基礎訓練 弱い声・強い声の訓練。短音長音の訓練。姿勢で意識を変える。腹筋訓練。 完全一度、短二度、長二度、短二度訓練 ♪こどものうた	息との関係を感じて身に付けるために繰り返し練習を。	第12回	母音テクニック子音のまとめ 音程オクターブ訓練。	母音子音のお再訓練と繰り返し。	
第5回	声帯訓練。正確な音程訓練。音程による明るい音程訓練。二度三度音程訓練。	ゴール意識、口の開け方に注意し、繰り返しの練習。	第13回	試験実技試験	基礎訓練の繰り返し。	
第6回	声量を増やす訓練。無駄な力を抜く訓練。 1回～5回までの滑舌各種訓練。 長二度、短二度、長三度、短三度訓練。	5回までの授業で学んだ脱力方法で、クレシェンドの練習を繰り返す。	第14回	試験	基礎訓練の繰り返し。	
第7回	呼吸と発声。呼吸と滑舌。呼吸と音程。呼吸とリズム。ゴール設定+意識+行動。 長三度、短三度、四度音程訓練。	それぞれの組み合わせ、丁寧にゆっくり繰り返し訓練。	第15回	総合訓練。 まとめと歌。	卒業しても自分が自信を持って園児を育てるために基本練習は繰り返し続けていきましょう。	
第8回	発声と滑舌。発声と音程。発声とリズム。ゴール設定+意識+行動。 長四度、短四度、完全五度訓練。	それぞれの組み合わせの丁寧な繰り返し訓練。			事前・事後学修時間 (分/授業1回)	45分/授業1回

教科書 [書名/著者名/出版社]	こどものうた200/小林美実/チャイルド本社	受講生へのメッセージ	歌うことに自信が無くても大丈夫！ 声の出し方の正解を知らないだけです。全員が授業で学ぶ事は誰にでも共通する基本的な正しい発声法を指導しますから安心してください。 それ以上の技術は個人個人違います。自分の本当の課題を求める本気の学生は、喜んで教えますから研究室を訪ねてください。 自分の人生台本は、今書きましょう。未来の理想の保育者としての貴女は、もうすでに今の貴女の心の中に描かれて生きているのです。
参考書 [書名/著者名/出版社]	なし		

評価基準																	
	学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	配点比率(%) 学修成果の	評価方法の配点比率(%)						学修成果の小分類			尺度				
				定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S : 100~90%)	レベル4 (A : 89~80%)	レベル3 (B : 79~70%)	レベル2 (C : 69~60%)	レベル1 (F : 59%以下)
観点	尽心	① 誠実性															
		② 倫理観															
	知識・技能	③ 知識	20					10	10	発声、呼吸、表現、楽典の知識などをしっかりと身に付け演奏できる。	基礎的、知識、専門技能、表現力	授業内で積極的に取り組む姿勢。発言する時の滑舌のメリハリと明るい表情。	発声、呼吸、表現、楽典の知識などをしっかりと身に付け演奏できる。	発声、呼吸、表現、楽典の知識などをある程度身に付け演奏できる。	発声、呼吸、表現、楽典の知識などをある程度身に付け演奏できる。	発声、呼吸、表現、楽典の知識などをある程度身に付け演奏できる。	
		④ 技能	70	20				50		うたに対する表現力があり、呼吸法、発声法などの基礎が身についている。	基礎的・専門的技能	実技試験において、正しい基礎知識を理解し表現できる。	歌うこと、表現する能力を十分身につけており、誰にでも指導できる。	歌うこと、表現することの技術は十分あり、園児にも指導できる。	歌うこと、表現することの技術があり、人の歌も評価できる。	歌うこと、表現することの技術はある程度あるが、園児には指導できない。	
	創造	⑤ 数量的スキル															
		⑥ 問題解決力															
	表現	⑦ 言語的スキル															
		⑧ コミュニケーションスキル															
	実践	⑨ 主体性	10					10		主体的に発声、呼吸、表現、楽典の知識などを学び、発表に取り組むことができる。	積極性、意欲	発表内容によって評価する。	主体的に発声、呼吸、表現、楽典の知識などを学び、発表に取り組むことができる。	発声、呼吸、表現、楽典の知識などを学ぶ意欲が高く、発表に取り組むことができる。	発声、呼吸、表現、楽典の知識などを学び、発表に取り組むことができる。	発声、呼吸、表現、楽典の知識などを学ぶ意欲は高くないが、発表に取り組むことができる。	
		⑩ 協働性															
合計			100	20			10	60	10								